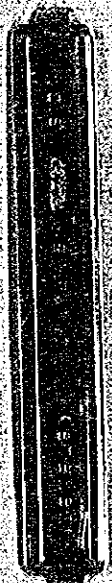


アムステルダムにおけるYERBA MATEの生産と消費 — アムステルダム



C-17

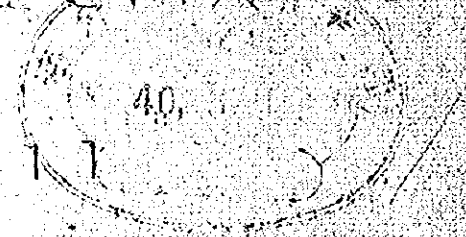
営農普及資料011

Y-02

アルゼンチンにおける

YERBA MATEの生産と消費

1964. 11



海外移住事業団アスンシオン支部

国際協力事業団	
受入 月日 '84. 9. 14	701
登録No. 09562	84 EM

JICA LIBRARY



1053994[8]

アルゼンティンにおける Yerba の生産は、ミシオネス州及びコリエンテス州北東部に限られている。

アルゼンティンにおける Yerba の生産者は

- (1) 25Ha 程度の所有地を有する小農 3~5Ha の Yerba を作付けている。小 Yerba 生産者。彼等の殆んどは自ら加工の設備を持たず畑で生葉を売っている。(一般に収穫労賃は買手負担である。)
- (2) 数百 Ha 場合によつては千 Ha 以上を所有する中農で百 Ha 前後、時としては数百 Ha の Yerba を作付けている中生産者。彼等は通常 Secadero (第一工程の工場) をもち近隣の小生産者の生葉を買って Canchada まで加工している例が多い。
- (3) 数万 Ha を所有する大農園。コリエンテス州に多い数百 Ha の Yerba 園を持ち自ら Yerba Molida まで加工し自己の Morca で販売しているもの。

等に分けることができる。

しかしながら全体から云えば(3)の占める比率は少いので、ミシオネス州で生産される Yerba の大部分が Canchada の形で市場に出されている。この Yerba Canchada は Buenos Aires あるいは Rosario 等にあるより大きな資本により Molida にされ袋詰にされて消費者に販売される。この点 Tung 油が当初はすべて Chaco 州の工場で搾油されていたが現在はそのほとんどが州内で搾油されている事実と対比し Yerba が州内では第一加工にとどまり最も利益のある第二加工が遠隔地にある大資本の手にまかされていることは一つの特徴である。

2. (1) 1957年の Yerba 作付解禁後におけるアルゼンティンの Yerba の動きをミシオネス州及びコリエンテス州北東部の Yerba 生産者 (Yerbatero) で組織されている *Asociacion Rural Yerbatera Argentina ARYA* (アルゼンティン yerba 生産者協会) の年次決算報告書を中心として追ってみよう。
- (2) アルゼンティンの Yerba 生産者については *Comision Reguladora de Yerba Mate: CRYM* (yerba 統制委員会) が統制しており、1953年の推定作付面積は約63700 Ha で生産された Canchada は728,000tであった。しかしながらこの作付統制により古くなった yerba 園の生産力が低下し、一方消費は若干ずつ伸びていた(と当時と考えられていた)ため、不足分を輸入しており ARYA としては生産を増やすことを望んだ。このため CRYM は1954年に補植及び古い yerba 園の更新のため32,500 Ha に対し許可を与えた。この処置にも拘らず生産は次に示すように

低下していった。

1952年	137,000t
1953年	128,000t
1954年	107,000t
1955年	110,000t
1956年	92,000t

こうした情勢を反映してARYAはYerbaの新規作付けの許可をCRYMに対し求めた。ARYAは1H²当り平均収量 Camchodaで2,000kgとし全作付面積が700,000H²までは作付可能と判断したのである。

又ARYAの判断に従えば消費量は年間200,000tに近いて行かなければならないが現実には後に示すように1人当り消費量が減少して行つたばかりでなく消費量の絶対量も減少して行き1964年には126,624t(9月までのMolino出荷量よりの推定数字)となった。

イ. 1952~1956年の生産量はYerba園が古くなり生産力が落ちたことによるものとARYAは考え従つてこのまゝに行けば生産は減少し続けると考えたようであるが現実には既存の63,700H²のうち1954年の更新・補植の許可により古いYerba園が更新され生産のある作付面積が減つたこと(逆な言い方をすれば将来は生産が増加することになる。)及び何等かの理由で収穫しなかつたYerba園があつたらしいことから1957年から(即ち1957年の新植Yerbaの生産とは無関係)再び生産が増加しはじめている。

ウ. H²当りCamchodaで2,000kgという予想が正しかつたかという疑問。特に1954年の許可で補植及び更新が行われ1957年の許可で新植されたYerbaは全作付面積の40%以上に達するがこれが最盛期に入った場合には過去における平均収量を上まわると見てもおかしくないということ。

エ. 輸入に対する考慮がされていないこと。アルゼンティンは伝統的にブラジル及びパラグアイのYerba輸入国であり、その輸入量は1927年の80,000tから最近の20,000~30,000tと減少はしてきているものゝこゝろ市場からシャット

アウトすることは ALALC の関係も出てきて簡単ではなかった。特に Yerba の場合ホニ次工程 (Molino) が生産者の手から離れているため生産者の利害とは関係なく彼等の必要で輸入の方に利があれば輸入するに及び栽培 Yerba に比し山の Yerba は (ブラジルの生産のうち多くの部分及びパラグアイの生産のうち Concepcion (地方のもの) 上質で味がよいとされているため嗜好的な面からも輸入のことは考えておくべきだった。

また上述の輸入を考えなかったことからたとえ上述アの国内消費量が正しく予想されており消費量がそれに見合ったとしても南米の Yerba 市場全体としては生産過剰になるわけでその場合のアルゼンティン国内へのはねかえりを考えていなかった。特に輸入をシャットアウトされない限りこのはねかえりは深刻である。

3. ARYA の要請をうけて立つた CRYM の処置は ARYA のこの判断の誤りを一層深刻なものにした。CRYM は 1957 年 6 月 30 日に Yerba の新植を許可したのであるが 1 戸当り 75 H² という制限と自由に作付けできる期間を制限しただけであった。CRYM としては ARYA の判断をうのみならず当然独自の分析をすべきであつたが実際には作付面積全体のコントロールすらできない形で新植の許可をしてしまったのである。これは当時の Yerba 生産者達の衆観的なムードにまきこまれたとも云えるものであることを考えるとつと博愛であるべきであつた。

この許可にもとづいて新植された Yerba は 52,388 H² とされているがこのうち約 22,000 H² は 1954, 1955, 1956 及び 1957 年の 4 年間に無許可で新植されていたものがこの機会に表面に出たものであり、許可に従つて作付けられたのは 1958 年の約 30,000 H² であつた。(ARYA 1958 年度年次報告より)

従つて統計的には 1958 年に 52,388 H² が新植されたことなるがこの中には上述の 1954~57 年の作付分が含まれている。これを整理してみたのが次表である。

年 度	作 付 面 積	備 考
1953 年まで	63,800 H ²	内 22,000 H ² は 1954 年の許可により補植あるいは更新 22,000 H ² を平均にありつた。新植
1954 年	5,500	
55	5,500	
56	5,500	
57	5,500	

1958年	28,900 H ₂	新植
計	175,600 H ₂	

: ARYA 1958年度報告書より

結果的に云えば ARYA の予定作付け面積を 15,600 H₂ オーバーした結果となつたため 1963 年の ARYA の年次報告では CRM のやり方を手きびしく批判しているが ARYA のこの批判は責任転嫁であつて事實は (2) で述べたように ARYA のおろそか 100,000 H₂ 自身大きな問題を含んでいたのである。

3. アルゼンティンの Yerba 消費について ARYA は 1963 年度年次報告書に次の数字をあげている。

年次	消費推定量
1960	9,700,000
1961	9,700,000
1962	11,500,000
1963	10,000,000

ARYA のこの 1963 年度年次報告は Yerba の危機感がいよいよ深まつてきた事情を反映してかあまりにも消費量を少くみすぎているようである。Yerba 消費量の推定はむしろ Molino (二次加工工場) が出荷する Yerba Molida の量から考えて見た方がよい。その理由は

- (1) ブラジル及びパラグアイより輸入される Yerba は半製品である *Canchoada* と限られ、国内の Molino で加工されてから消費されるので国内消費は国内の Molino の製品以外にないと考えてよい。
- (2) アルゼンティンの Yerba の輸出は 1955~67 年の動きをみても 1958~75 年と極く少量であり Yerba Molida が輸出されているとしてもほぼ全量が国内消費にまわつていると考えられる。
- (3) Molino から出荷された Yerba Molida が販路までの卸卸又は山売店でストックされるわけであるが山売店等は、その資本から云つて大量のストックはできないし、特にストックされなければならぬ理由も見あたらないから、常時一定量のストックを持つていると考えられ、従つて Molino の出荷量即ち国内消費量 (輸出は無視できる程少量であるので) と考えてよい。

以上の前提から推定される消費量は次の通りである

年次	人口	消費量	一人当消費量
1958	20,437,800	142,000 t	6.95 kg
1959	20,613,900	138,000 t	6.68 kg
1960	20,970,000	137,000 t	6.23 kg
1964	22,300,000	126,624 t	5.68 kg

註 1. 人口は亜国大蔵省 Boletín Mensual de Estadístico より

2. 消費量は ARYA 1960 年度年次報告書の Molino よりの出荷量より、

1958~1960 年の

3. 1964 年の消費量は El Territorio (1964. 11. 14 付) 誌発表の 1964 年 1~9 月の Molino 出荷量を年間にならしたもので、

出荷量は 2 月の 8,583 t を最低とし 9 月の 12,898 t を最高とし大体平均している。

又参考までに 1970 年~1979 年の消費を示すと次の通りである。

年次	人口	消費量	そのうち輸入量	人口一人当消費量
1970	6,725,000	48,000,000	4,826,000	7.15 kg
1975	8,057,000	59,750,000	5,828,978	7.34
1980	8,729,380	69,850,000	6,870,972	7.76
1985	10,751,260	81,000,000	7,552,209	7.98
1988	10,900,000	90,030,000	7,504,733	8.26

国内消費量は ARYA の予想に反して減少している。特に一人当り消費量の減少の割合はかなり急激に 1958~1964 の間に

6.96 kg から 5.68 kg と 12% 程減少している。又消費の絶対量も同じ期間内に約 16,000 t の減少を見せている。

上述の数字から云えば今後のアルゼンティンの Yerba の消費は減ると見るのが自然であらう。

4. アルゼンティンに於ける Yerba の輸入

アルゼンティンは伝統的に Yerba の輸入国であつてその主たる輸入先はオーにブラジルでオーにパラグアイであつた 1928 年を例にとると 7,504,733 t 1927 年に 8,032 t の輸入があり 2/3 が Yerba molido の 1/3 が Yerba molida

の形で入つてきている。

最近における輸入の状況は次表の通りである。(すべて Canchada)

年次	ブラジルよりの輸入	パラグアイよりの輸入	計
1955	23,377 t	3,887 t	27,264 t
56	17,287	3,222	20,509
57	28,733	3,966	32,699
58	32,970	5,564	38,534
59	17,765	8,249	26,014
1960	25,278	15,417	40,695
61	30,530	8,544	39,074
62	19,286	5,714	25,000
63	15,270	6,730	22,000
平均			

註 1. パラグアイよりの輸入量 1958~59 は Boletín Estadístico Mensual del Banco Central Paraguayo の輸出統計より

2. ブラジルよりの輸入 1955~61年及びパラグアイよりの輸入のうち 1955~57年は事業団調査課資料 No. 36 茶葉の市場と市況 (P13) より

3. ブラジルよりの輸入中 62~63分は ARYA 1963年度年次報告より

5. アルゼンティンにおける yerba の生産

年次	生産量	年次	生産量
1952	137,000 t	1958	113,000 t
53	128,000	59	106,000
54	107,000	1960	112,000
55	110,000	61	125,000
56	92,000	62	135,000
57	109,900	63	154,000

: ARYA 年次報告書 1957, 1958, 1959, 1963年度分より

Yerba生産量は1954~58年に新規補植されたYerbaが生産期に入ってくるにつれて1961、62、63と生産が急増してきている。今後についても収入のコントロール等が行われない限り年々生産は伸びつづけることになり250,000ト位に達するものと見込まれる。

6. アルゼンティンにおけるYerbaのストック

アルゼンティンにおけるYerbaのストックをBoletín Mensual de Estadística (連国大蔵省)からひろつてみると次のようになる。

	Molinoにおける在庫				Canchada 存在量	合計 ストック量
	Canchada	Molida	Palo	小計		
1958年度始め	14,684 t	10,100 t	1,124 t	25,878 t	52,577 t	78,389 t
1959 "	23,802	7,468	2,773	34,044	44,042	78,085
1962 "	18,600	10,600	1,300	30,500	82,500	113,000
1963 "	15,300	4,700	2,400	24,900	105,700	130,600

註 1. Molinoにおける在庫は殆んど一定している。

2. Canchada在庫量は既に売買契約がMolinoととりかわされているがまだMolinoに運びこまれていないもの及び生産者のストックである。

又3~5に説明した各数字から推定ストック量を算出すると次のようになる。

年度	生産量	輸入量	全供給量	国内消費量	輸出货量	全消費量	年度末のストック量
1958							78,085 t
59	106,000 t	26,074 t	132,074 t	137,000 t	499 t	137,499 t	72,600 "
60	712,000 "	40,635 "	152,635 "	137,000 "	715 "	137,715 "	93,520 "
61	725,000 "	40,074 "	165,074 "	129,000 "	378 "	130,178 "	128,316 "
62	735,000 "	25,000 "	160,000 "	128,800 "	500 "	129,300 "	159,016 "
63	754,000 "	22,000 "	176,000 "	127,700 "	500 "	128,200 "	266,816 "

註 (1) 61年62年63年の消費量は60年64年よりの推定

(2) 62年63年の輸出は一応500トと見て計算

以上の二つの表を比較すると1963年始め即ち1962年末のストック量は130,000t及び159,000tと約30,000tのちがいが生じているが上の表のストック量も特に生産者のストックが正しく把握されているかどうか不明であるため確かと云えないがそれでも1962年末には130,000~160,000tのストックが1963年末には約200,000tに達するストックが生じていることは確かである。このストック量からMolinoの恒常的なストック約30,000t差引いた約170,000tが生産過剰によるストック分であり、アゼンティンの消費の約一年半分に相当する。

